

地域包括ケアシステム推進チーム

地域包括ケアシステム推進チーム

メンバー構成

- ・山中（伊丹市訪問看護ステーション）
- ・黒岩（看護小規模多機能型居宅介護さくら）
- ・幸野（看護小規模多機能型居宅介護さくら）
- ・竹下（天神川・荻野地域包括支援センター）
- ・前原（笹原・鈴原地域包括支援センター）
- ・小牧（サポートテラス）



チームの取り組み

地域包括ケアシステムの推進

取組の概要

施設機能のセーフティネット強化として、緊急ショート受け入れ体制の構築の検討、費用軽減制度の検討、医療的ケア（喀痰吸引）の職員の育成、指導

取組のポイント

看多機さくら、ケアハイツいたみ、松風園でのショート等の検討。看多機さくらの宿泊費の軽減制度の検討、喀痰吸引指導研修への看護師派遣

なぜ、地域包括ケアシステムの推進をテーマに取り組みましたか？

目標達成までに見つかった課題に対し、チームのメンバーでどのようにして取り組みましたか？



チームリーダー 山中さん

社会全体の課題として、医療的ケアの必要な方が十分な在宅サービスを利用できない、利用者、利用者家族の安全、安心の場を提供する場が少なくなっていることなど、地域の中でセーフティネット機能強化を事業団が発揮することで、地域全体の課題を解決できないか、という思いがあった。



黒岩さん

取り組んでいく内容、課題が多く、何から取り組んでいくべきか、当初は戸惑いがあったが、それぞれの専門職分野に手分けして、情報収集を行い、共有することを繰り返すことで、継続的な課題もあるが、一つずつ積み重ねができたのではないかな。



効果検証

養護老人ホームにおける契約入所、特養空床利用型ショート申請、法人独自の低所得者向け費用負担軽減制度については、引き続き検討が必要な課題。

医療的ケア（喀痰吸引）が必要な方の泊りサービス提供が実施できるようになるまでには、時間を要するが着実に研修派遣を行うことで実現可能であろう。

看護小規模多機能さくらにおいては、来年度より受け入れができるよう変更申請を行う予定のため、家族の介護負担の軽減、相談支援機事業所の調整にかかる負担軽減の一助となる。

これらの取り組みについては、実施に向けて継続的に検討することでセーフティネットとしての社会福祉法人の責務が果たすことができるのではないかと

取組を継続するために今後どのように進めていきますか？



前原さん

今年度、チーム内あるいは現場と直接意見を聞くことができたことで、新たな課題を感じた。制度等の情報収集ある程度行えたため、実現に向けての引き続き検討を行っていききたい。

取組の中でメンバーの成長、チーム力の向上を実感しましたか？



竹下さん

チーム員（現場、障がい、高齢者相談）それぞれの立場での意見交換が行えたことで、お互いの課題等の把握ができた。

また普段の業務の中では、なかなかやり取りが少ないが、今回の取り組みで新たな関係性の構築を図れた。

約1年間の活動を振り返っての総評



チームリーダー 山中さん

チームが取り組んできた内容はとても大きなテーマであり、とても重要な施設機能のセーフティネット強化であった。来年度以降も引き続き取り組んでいかなければならない。チームメンバーでそれぞれの立場での意見交換及び同じ目標に向かって検討できたことは、知識を深めることができたのではないかと思います。